



巻頭言 議長が一般質問

6月定例会では議長である増田望三郎は一般質問を行いました。安曇野市議会過去20年において、議長が一般質問をした例はなく、私も議長になってからの定例会では一般質問をしていませんでした。これまでの前例にないことをしたわけですが、そもそもなぜ議長は一般質問をしないのか。その理由をまとめますと、



①議長は議事進行に専念すべき
②議長は中立公正な立場を維持すべき
③前例が無いのですべきではない。といった点が挙げられます。これに

対しての私の考えは以下です。

①議長が一般質問する際は副議長に議事進行を代わればよい。今回は中村今朝子副議長が進行をし、不具合はなかった。
②議長に求められる中立性は議事運営においてである。また今回の質問内容は中立公正さを失うものではない。
③「前例が無いのですべきではない。」という理由で、議員の権利を制限することは慎重であるべき。

では今回なぜ一般質問をしたかと言うと、重要な政策課題を議場という公の議論の場でしっかりと行うのが議員の責務であるという思いからです。具体的には、橋渡教育長が5期目の再任をされた最初の議会であり、市の公教育についての施政方針を教育長に問わなければと考えました。また議長の一般質問について以下のように考えています。

・議長も一議員であり、一般質問は議員の大事な権利であり責任。一般質問は議長の立場でなく、一議員として行う。
・有権者である市民は、選挙の際に議長としてではなく、一議員としての増田望三郎に投票をした。負託してくれた市民の声を届けたい。今回ならPFASのテーマがそれでした。
・議長が一般質問をしてはいけないとする地方自治法や市議会の規程は無い。実際に議長が一般質問している議会は全国にはあるし、近隣では大町市議会では議長が3月定例会で一般質問をしています。

今回、本件について事前に市民のみなさんに意見を伺うアンケートを取りました。回答数は79件。一般質問することに反対する人は2名。残りの77名は賛成でした。アンケートの自由記述回答をまとめると、

・議長も一議員
・法律で禁止されていない
・前例や慣例だけではしてはいけないという

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政や議会が市民にとって身近になるために、虹(= Rainbow レインボウ)の架け橋となるような議員活動をしていきます。望三郎の活動はブログやフェイスブック、インスタでもどうぞ。

理由にならない

・副議長が進行すればよい
・市民のためになるなら質問すべきという内容でした。

市民のみなさんはどう考えますか？

望三郎市議インタビュー動画



望三郎後援会が作ってくれた新動画「増田望三郎議員、市議選その後&議長になって」ができました。ぜひご覧ください。

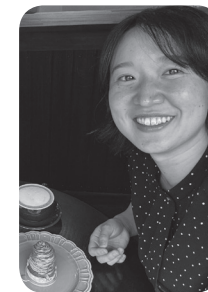
観光協会、商工会など市内各種団体の年度総会への参加、日展などのイベント来賓参加、福岡市東区、埼玉県三郷市など、安曇野市の友好都市自治体を訪ねての交流など、事業系から市民活動まで議長として参加させてもらっています。この安曇野市がどのような関係性の中でまちづくりを進めているのかが分かり、安曇野大好きな私ですが、安曇野をまた一つ深く、広く知ることができるのは議長になったからこそだと思います。いまだ「議長挨拶」がなかなか苦手なのですが。(笑)

望三郎議員とのカフェトーク

日時：8月16日(日) pm1:30～3:30
場所：蔵のカフェレストラン清雅(豊科3550-1)※飲み物をご注文ください。
市政の様々な課題や市民のみなさんが関心あるテーマについて、望三郎議員の考えを聴いてみたい、自分の考えも聞いてもらいたいという方、どうぞご参加ください。

●プロフィール
大分県出身 57歳。東京経由で安曇野に移住し23年目に。三郷小倉に妻、妻の両親と暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿(ちきゅうやど)』を経営。安曇野市議4期目。現在議長。好きな言葉は『出会い、共感、展開』

サポーターからの応援メッセージ 47



須藤奈央さん(豊科、地球宿スタッフ&ヘルパー)
望さんとの出会いは、2年前に地球宿で農業ボランティア(WWOOF)をしたことがきっかけでした。たった1週間の

滞在でしたが、安曇野の豊かな自然や地域のコミュニティに魅了され、何より、自分の願いにまっすぐで、人一倍努力しながら何事も楽しむ望さんの姿が印象的でした。その後、安曇野へ移住し、地球宿のスタッフとして働いています。この1年間、多くの経験や出会いに恵まれたのは、望さんが築いてきた地域との繋がりがあったからだと思っています。社会人になってから「政治に関心を持てる大人になりたい」と思っていたのですが、何から学べばいいのか分かりませんでした。望さんのおかげで、市政や選挙を身近に感じられるようになり、一般質問の傍聴にも足を運びました。国政は遠く感じても、市政は暮らしに直結し、自分たちの声でより良くしていける。今年からは「あづみの次世代Voice」にも参加し、さらに市政を自分ごとにしていきます。議長となってさらに忙しい中でも、ゲストハウスや畑、田んぼに変わらず向き合い、「今日も生ききった～」と嬉しそうな望さん。その姿が多くの人を惹きつけ、地域や政治に楽しく関わる輪を広げているのだと思います。これからも応援しています。健康第一で！

6月定例会の一般質問

《質問1》

本市における PFAS 問題への対応

PFAS とは撥水性や耐熱性、耐薬品性に優れ、撥水スプレーや調理器具、消火剤など幅広く使用されてきた有機フッ素化合物の総称。自然界で分解されにくく「永遠の化学物質」とも呼ばれ、環境や健康への影響が国際的に懸念され規制が進められています。本市における PFAS 含有泡消火剤の管理体制、環境リスクへの対応、並びに市民への情報提供と啓発について質問しました。

望市議 市役所の地下駐車場の PFAS 含有の泡消火剤設備で、松本市と同様の放出事故が起きた場合の対応マニュアルは。

総務部長 消火剤が放出されても初動対応が確実に行えるよう、担当課と庁舎管理の委託業者との間で手順等を確認している。年内の対応マニュアル策定を目指し、よりの確かつ迅速に対応できる体制を整備していく。

望市議 市民に対して PFAS 問題をどのように啓発し、周知をしていくか。

市民生活部長 環境省の資料を活用し、正しい情報を広報などを通じ、簡潔で分かりやすく伝えていく。

望市議の考え…環境行政は状況が発覚してから動くということではなく、分からないこそ備えるという姿勢が重要です。安曇野市の地下水は、次世代から預かるかけがえのない共有財産、その価値を将来世代へ確実に引き継ぐためにも、環境の予防原則に立った実態把握と情報公開を進めていくべきです。

《質問2》

安曇野市のこれからの公教育について

2026 年 3 月定例会において橋渡教育長が再任されました。単なる人事案件ではなくて、この再任の節目にあたって、教育長がこれま

での教育行政をどのように総括して、これからの安曇野市の公教育をどのようにしていきたいのか市民や議会に対してしっかりと語っていただく機会が必要と考え質問をしました。

望市議 教育長の再任の節目、これまでの教育行政の総括とこれからの公教育をどうしていきたいか。

教育長 目指す子供像として「たくましい安曇野の子ども」を掲げ、教育大綱に位置づけた。また教育振興計画を策定し、本市教育行政の基礎固めができた。今後、日々の教育活動の中で、主体性や多様性を育むには大人の意識改革が必要。親も教師もあれこれ指示しないで待つ、急がせずに寄り添っていく姿勢が当たり前となるため地道に取り組む。

望市議 子どもの権利の啓発を通じ、子どもの意見表明や対話を重視する学校文化をどのように築いてくか。

教育長 子どもの意見表明、社会参加の促進は、学校の内外の場でその機会を意図的に設けていくことが必要。

望市議 これからの安曇野市の学校をどのような場にしていきたいか。その学校像を学校の先生、保護者、地域市民とどのように共有して実現していくのか。

教育長 子どもたちが人とのつながりの中で、安心して自分らしく個性を発揮し、目標に向かって挑戦できる学校を目指したい。保護者や地域の方々と市の方向性を共有することが非常に大事。丁寧な説明や情報発信、対話がますます重要だ。

6月定例会トピック

・黒沢洞合自然公園リニューアルイベント。一時は自然公園に隣接する林地に太陽光パネルが設置される民間事業計画もあったこの公園。公園拡張のリニューアル工事が終わり、

民間 NPO による運営により供用開始されます。素敵な公園、ぜひ足を運んでみてください。

【陳情】

幼児期からの包括的性教育の推進のための意見書提出を求める陳情書は十分な理解を深めるために継続審査になりました。次回 9 月定例会に注目です。

忙しい中でも、さらに忙しくなる政治トークイベントを行いました

5 月 9 日に社会活動家で若手インフルエンサーの谷口たかひささんを迎えて、市民、市議と一緒に語る政治トークイベントを開催しました。日々忙しい中に、更に忙しくなるこのようなイベントを開催した理由は…
前回の市議選の投票率は 8 ポイントも落ちて 5 割を切るあり様。選挙の時だけ取ってつけたように働きかけてもダメで、日頃からどれだけ市民との接遇機会を持ち、一緒に市政を考えているかが肝要です。高校生との意見交換など、議会の新たな取り組みもありますが、一議員としても、市民と政治を考える場をつくろうと思いました。その思いに共感してくれた議員や市民がいることも嬉しいです。議会や議員が、内へ向かうのではなく、常に市民に広く開かれたものでありたい、そのための場を積極的に創っていきたいです。



トークイベントには約 100 名近く集まった

